1 研究主題

学習効果を高め、基礎・基本の確かな定着を図るためのICT活用の研究

2 主題設定の理由

学習指導要領の総則では、「情報教育」及び「教科指導におけるICT活用」の充実が述べられている。特に「基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学習に取り組む態度を養うためには、児童がコンピュータや情報通信ネットワーク等の情報手段を適切に活用できるようにすることが重要である。また、教師がこれらの情報手段や視聴覚教材、教育機器などの教材・教具を適切に活用することが重要である。」とある。

ICTの活用には、「学習指導の準備と評価のための教師によるICT活用」、「授業での教師によるICT活用」、「児童によるICT活用」の3つが挙げられるが、本研究会ではこれまでの授業研究において、主に教師が授業のねらいを実現するためのICT機器の効果的な活用を図ってきた。

これまで、日常の授業で実践できるよう、とりわけ実物投影機やプロジェクターといった簡易な機器の活用に重点を置いて研究を続けてきた。その結果、ICT活用の目的を明確にもち、何をどのようにどれくらい見せるかを工夫することで、学習効果が高まることが成果として明らかになってきている。また、基礎基本の定着を図るための、フラッシュ型教材の活用や作成についても、効果を確認してきた。また、近年の授業実践では、身近な存在になりつつある携帯型端末（タブレットPC等）の活用にも取り組み、新しいICT機器活用の有効性や工夫についても、今後研究すべき点として確認された。

上記のICT活用を踏まえ、その効果的な活用について、教科指導のなかで「基礎基本の定着を図る」ことに重点を置き、さらに研究を深めていきたい。

3 研究目標

基礎基本の確かな定着を図るため、学習意欲を高めたり、知識や技能を身につけさせたりするICTの効果的な活用を、授業実践を通して明らかにする。

4 研究仮説

学習指導の中の発問や指示等において、ICTの特性を踏まえ、活用を工夫していくことにより、より効果的に学習意欲を高めたり、知識や技能を身につけさせたりすることができる。

5 研究内容

主に、以下について授業計画及び授業実践、研修会を行う。

- ・指導の意図を明確したICT活用と発問・指示等の吟味。
- ・ICTの特性の理解と、活用による効果の検証。

6 研究内容

(1) 研究経過

4月27日（水）郡小中教研総会（五戸町立五戸中学校）

5月16日（月）第1回役員研修

7月28日（木）夏季研修会（南部町立福地小学校）

「キューブねっと（スズキ教育ソフト）における情報モラル教材の活用」

講師 スズキ教育ソフト 鈴木 真理氏

- 8月22日(月) 第2回役員研修会兼第1回指導案検討会
8月30日(火) 第3回役員研修会兼第2回指導案検討会
10月13日(木) 第3回指導案検討会
10月27日(木) 第4回役員研修会
11月16日(水) 郡小学校教研Ⅱ群研究発表会
会場 五戸町立五戸小学校
教科・単元名 1年生 算数 かたち(2)
授業者 成田 千香子(五戸小学校教諭)
指導・助言者 (三八教育事務所主任指導主事 小林 孝史氏)

(2) 郡小学校教育Ⅱ群研究発表会

①単元の目標

- ・ものの形についての観察や構成などの活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を豊かにする。
- ・ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりする。

②本時の目標

- ・色板を移動(ずらす・回す)させて、見通しをもって形を作ることができる。(知識理解)

③研究仮説とのかかわり

a デジタル教科書

- ・課題提示や指示を明確に伝える。
- ・必要な部分だけを見せることで、課題を明確にできる。
- ・手元に教科書を置く必要が無いため、指示や片付けなどの時間が短縮できる。

b 実物投影機

- ・元の形から、変形するまでの色板の動きを実際に見せることができる。
- ・児童が手元の実物を使って説明することができる。

c マグネットスクリーン

- ・実物投影された色板に文字や補助線、矢印などを書き加えることで、操作を見るだけでなく動きの過程がわかるなど、理解をうながす。

6 研究のまとめ

視聴覚研究会は、これまで実物投影機とプロジェクターを中心にして、基礎基本の習得のためのICT活用のあり方を研究してきた。これにより、日常におけるICT機器の活用の工夫が研究され、見せ方やタイミングなどの研究成果が蓄積されてきた。今年度のⅡ群視聴覚の授業においても、基礎基本のためのICT活用という目的は変わらず、低学年の児童についての効果が研究された。三角形を使った形づくりにおいて、動かし方の過程をとらえさせながら、しかも、児童が実際に動かしながら説明できるというメリットを生かし、わかりやすい授業へつなげた。また、近年デジタル教科書も教育現場に普及し始めている。今回の授業では、導入部分で課題把握の時間に活用したが、研究協議ではその他の学年、教科の活用についても、情報交換がされ、大変有意義であった。また、ICT機器の活用については、本時のねらいを達成するということに加え、学習への集中をうながすことと、機器活用による時間短縮で学習時間をより多く確保できるというメリットについても確認された。

また、今年度は、視聴覚部会の試みとして、研究の方針や研究会の指導案、協議の記録などをWEB上で閲覧できるようにした。このような情報の扱い方等の取り組みについても、研究会の話題にしていきたい。

向小学校 大川 英 智